

製品名: リン酸化 CBL (Tyr774) ウサギモノクローナル抗体**カタログ番号: AMRe01549**

研究使用のみ

概要

説明	組換えウサギモノクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IP
反応性	人間、ネズミ
標識	非共役
修飾	リン酸化
アイソタイプ	IgG
クローン性	モノクローナル抗体
形態	液体
濃度	0.5mg/ml。本製品の濃度はロットによって異なる場合があります。
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50mM トリスグリシン（pH 7.4）、0.15M NaCl、40%グリセロール、0.01%アジ化ナトリウム、0.05%保護タンパク質
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:1000,IP 1:20-1:50
分子量	Calculated MW: 100 kDa; Observed MW: 120 kDa

抗原情報

遺伝子名	CBL
別名	CBL; CBL2; RNF55; E3 ubiquitin-protein ligase CBL; Casitas B-lineage lymphoma proto-oncogene; Proto-oncogene c-Cbl; RING finger protein 55; Signal transduction protein CBL
遺伝子 ID	867
SwissProt ID	P22681
免疫原	ヒト CBL の Tyr774 を囲む残基に対応する合成リン酸化ペプチド

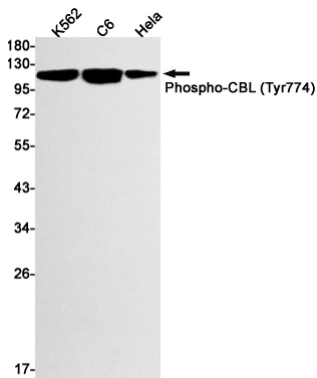
背景

この遺伝子は、RING フィンガー E3 ユビキチンリガーゼをコードするプロトオンコジーンです。コードされているタンパク質は、プロテアソームによる分解の標的基質を選別するために必要な酵素の一つです。このタンパク質は、ユビキチン結合酵素 (E2) から特定の基質へのユビキチンの転移を媒介します。また、このタンパク質は N 末端にリン酸化チロシン結合ドメインを有しており、これによりチロシンリン酸化を受けた多数の基質と相互作用し、プロテアソームによる分解の標的とすることができます。そのため、多くのシグナル伝達経路の負の調節因子として機能します。この遺伝子は、急性骨髄性白血病を含む多くの癌において変異または転座していることが分かっています。この遺伝子の変異は、ヌーナン症候群様疾患の原因でもあります。

研究分野

細胞生物学

画像データ



Phospho-CBL (Tyr774) 抗体を使用した、K562、C6、Hela 溶解物中の Phospho-CBL (Tyr774) のウェスタン プロット分析。